



# ももりんM I Mだより

小諸養護学校  
センター的機能係  
平成31年2月1日  
No. 11

3学期もあと2か月ですね。1月になって、いくつかの学校の校長先生、教頭先生から「来年度M I Mに取り組みたいので、小諸養護学校と一緒にやりたい、申し込みはどうすればいいですか?」「学力向上の一環として低学年でM I Mに取り組みたい」また、担任の先生からも「1年の担任になったらぜひまたやりたい」というお声がけをいただいています。来年度については現在校内で企画中です。今年度1年生約450人、2年生約200人に参加していただきましたので、来年度はさらに多くの学校で参加していただけるように考えています。4月の校長会、教頭会で詳細についてはお知らせする予定です。また、今年度未実施校については年度末までに2回アセスメントを行っておくことをお勧めします。

## 小学校低学年で支援を行うことの重要性

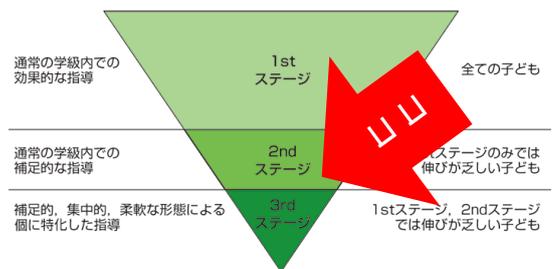
「9歳の壁」「10歳の壁」ということを聞いたことがあるかと思います。M I Mの研修会でもM I Mを開発した海津先生が「9歳までに適切な教育が受けられなかった子どもの場合、その内の実に70%が読みのつまずきを生涯もち続ける可能性があることが報告されている(National Center for Learning Disabilities,2004)」ということをお話されます。M I Mを実施するということで、今までやってこなかったことなので様々な大変さや負担感もあるのではないかと思います。1年生のうちにどれだけ3rdのお子さんを減らして2年生に進級できるかが重要なことだということがこのことから分かります。また、そう考えると、M I Mは特殊音節でしょとか、低学年のやることでしょということではなく、全校の課題なのだということも考えていただけるのではないかなと思います。

## 3rdステージ指導始めてます

3学期が始まり、3rdステージ指導を行っている学校もあります。ある学校では、朝のドリル学習の時間をステージごとに分けて学習をする計画にしています。クラスの人数の少ないクラスでは、クラス全体での授業の中で2ndステージ指導の時と同じように3rdステージ指導を計画しているところもあります。こうでなければというものはありませんので、学校の実態に合わせて進めていただけると良いと思います。

担任の先生方とお話をしていると、どうやら学年以外の先生にお願いすることは難しいと考えているのかな、子どもたちの休み時間を削るかたちで3rdステージ指導を行うのは難しいのかな、一部の子どもたちだけ取り出して学習を行うことは抵抗があるのかなと感じることがあります。この辺りは管理職の先生方による校内の先生方への理解や校内のサポート体制づくりが必要な部分なのかなと感じています。

3rdステージ指導を計画するときには、個人レポートをみると見えてくることがあります。お子さんによって、「いつも3rdだけれど、もう少しで2ndになりそうなところにあがってきたな」とか、「M I M-PMを行う毎に比較的波があって、結果が安定しないな」といったことが分かります。さら



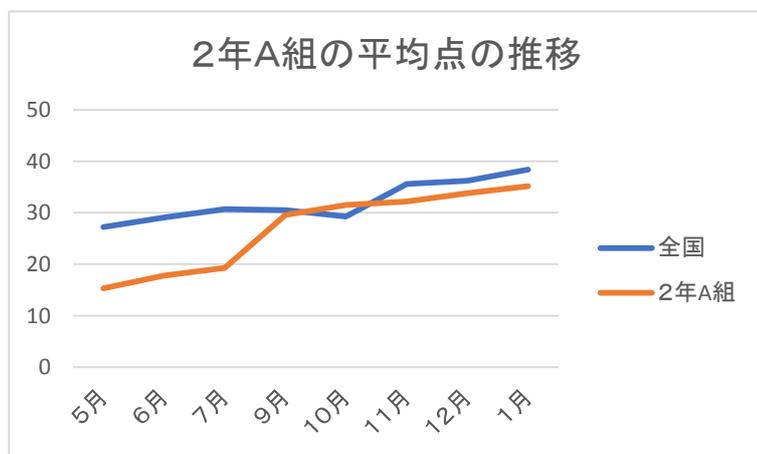
に個人レポートの要素別得点をみると、個別の配慮計画で■がついている部分はなかなかルールの理解ができていないのか、できそうなのに安定してできていないのかといった様子が分かります。こういったところから、3rdステージ指導の指導方針を立てていくと立てやすいかと思います。担任の先生が一人では、難しい部分については校内でどなたかに協力していただけるとありがたいです。また、1年生のクラスには学習習慣形成や支援員や支援教員などの先生方がいることが多いかと思います。先生の多い1年生のうちにできることをやっておくことが、2年生に進学するときに重要になってくると感じています。ある学校では、2年生になってから支援の先生を校内で調整していただいたケースもありました。

## 成果が上がってます

教室へ行くと、MIM関連の掲示物が掲示されていたり、宿題としてMIMのプリントが出されていたりするのを見ます。MIM-PMを行うだけでなく、日々のことばの学習を大切にしている学校は比較的MIM-PMの結果がよくなってきていることが多いです。また、2、3分という短い時間でも、ことば遊びゲームは子どもたちが楽しく取り組むことができ、語彙の力がじわじわと伸びてくる活動だと感じています。MIM-PMを実施して、ことばの学習の重要性に担任の先生方の意識が向くことで、MIMをやっていないときよりも少し丁寧にことばの学習について考えていくことも、今までよりも言葉の力が伸びていくうえで影響があると思います。



ある学校の2年生は、1年生のころから小諸養護学校のセンター的機能係が関わって、学習のあり方について担任の先生方と相談を重ねてきました。1年次はお子さん自身が学習に取り組みたいと考えていても、集中がなかなかできなかったり、読むことが一人では難しかったりして困っていました。2年生になり、MIM-PMを実施したところ、はじめはなかなか成果が出ませんでした。6月に



は特殊音節の授業を実施しました。毎月のMIM-PMの実施には1時間確保し、アセスメント後にことば遊びを行って語彙を増やしたり、聞く力を高めたりすることに取り組みました。また、子どもたちの負担が増えない範囲でことば探しのプリントなどを宿題に出すようにしました。すると、2学期になり運動会が終わった頃から、MIM-PMの結果がぐんぐん良くなってきました。授業や宿題にことばの学習を少しずつ入れてきたことも効果があったのかもしれません。その中には昨年度は、教科書が一人で読めずに先生が読み上げて課題に取り組んでいた子もいたのですが、いつの間にか自分で読めるようになっていました。担任の先生も、「今は読みに関しては気にならない子になっていきます」とのことでした。これらの変化がMIMだけの成果とはいえません。MIMを実施してきたことで、担任の先生に子どもたちの学びの様子がさらに見えてきて、ことばの力を伸ばす学習を重ねてきたことも子どもたちの育ちによい影響があったと考えるとうれしいです。

は特殊音節の授業を実施しました。毎月のMIM-PMの実施には1時間確保し、アセスメント後にことば遊びを行って語彙を増やしたり、聞く力を高めたりすることに取り組みました。また、子どもたちの負担が増えない範囲でことば探しのプリントなどを宿題に出すようにしました。すると、2学期になり運動会が終わった頃から、MIM-PMの結果がぐんぐん良くなってきました。授業や宿題にことばの学習を少しずつ入れてきたことも効果があったのかもしれません。その中には昨年度は、教科書が一人で読めずに先生が読み上げて課題に取り組んでいた子もいたのですが、いつの間にか自分で読めるようになっていました。担任の先生も、「今は読みに関しては気にならない子になっていきます」とのことでした。これらの変化がMIMだけの成果とはいえません。MIMを実施してきたことで、担任の先生に子どもたちの学びの様子がさらに見えてきて、ことばの力を伸ばす学習を重ねてきたことも子どもたちの育ちによい影響があったと考えるとうれしいです。